



棠花物語

つがひん
玉村筆
六



園林文庫

石室文庫

つがもをまよ

一多所うせをせ給てのちあつていふ教の
あつては海もよとあつてはきつてゆふに
音のあつてはよとあつてはまよとあつては
海もよのあつてはよとあつてはまよとあつては
つうのひまもよとあつてはまよとあつては
てはよとあつてはまよとあつてはまよとあつては
がきつてはよとあつてはまよとあつてはまよとあつては
みよとあつてはまよとあつてはまよとあつてはまよとあつては
らうとあつてはまよとあつてはまよとあつてはまよとあつては
らうとあつてはまよとあつてはまよとあつてはまよとあつては

やどおのり海にのりしつらみぞどの
にこそせ給ふまればりあるぞどのあ
まさをとせ給ふしそがせ給ふま
ま多虎よりそをせ給ふしそこのや
あしりばらにこそせ給ふるありきり
まそはらみぞどのあまさをせ給ふま
のほとららのめらるるまをせ給ふ
せんとおほしきまよちんごともあづ
まげあまの世のほあつらぬとありん
あまはらちるくありしそこのほ
のみまはらちるくありしそこのほ

あまのせ給ふまればりあるぞどのあ
まさをとせ給ふしそがせ給ふま
ま多虎よりそをせ給ふしそこのや
あしりばらにこそせ給ふるありきり
まそはらみぞどのあまさをせ給ふま
のほとららのめらるるまをせ給ふ
せんとおほしきまよちんごともあづ
まげあまの世のほあつらぬとありん
あまはらちるくありしそこのほ
のみまはらちるくありしそこのほ

かまのりちりみどののゆめのこのこの之位
のむとめ係内坊のまきををもうめさる
せうしやうちやぶきくくみかまわ
のみあさしんせんまおがりうかう
どまのりゆづあつが月あまかりのまど
り幸のしときあめのはるのまをせ
ししうのまのあつうのあわのま
まのこのまのまのまのまのまのま
もくこのまのまのまのまのまのま
どろくくこのまをせゆらり幸のあ
まのまのまのまのまのまのまのま

くまのまのまのまのまのまのまのま
アわしのりのり幸のまのまのまのま
まのまのまのまのまのまのまのま
ろしががーゆのまのまのまのまのま
まのまのまのまのまのまのまのま
しきたまのまのまのまのまのまのま
りろくあでまのまのまのまのまのま
ろまのまのまのまのまのまのまのま
まのまのまのまのまのまのまのま
まのまのまのまのまのまのまのま
まのまのまのまのまのまのまのま

とこらせむにみせ給へばあもあつて
はしきこりらのほぐらあふこりらあど
らうものもそほそらうらあどびもあつて
しとれどしとらうらあどびもあつて
はどしきほあつてはうらあこのらあも
もくのほあつてはよはらたしとああ
らどしきえ給てつづらあのとどくせ給へ
ばどのほあつてはめのとどくつづらあ
らどしきえ給てつづらあのとどくせ給へ
ばどのほあつてはめのとどくつづらあ
らどしきえ給てつづらあのとどくせ給へ
ばどのほあつてはめのとどくつづらあ

のどくたきこえ給てつづらあのとどく
てみぎつづらあのとどくせ給てつづらあ
このあつてはよはらたしとああ
くつづらあのとどくせ給てつづらあ
らどしきえ給てつづらあのとどくせ給へ
てつづらあのとどくせ給てつづらあ
りのうらあのとどくせ給てつづらあ
らどしきえ給てつづらあのとどくせ給へ
あつてはよはらたしとああ
みゆるらあのとどくせ給てつづらあ

のうらやちゆへきしちどくたにりてせほて
 こやのほまへよりまのせせほのわがてれ
 まふとて舞踏しほやのほめのとや
 うちほりあまのかりーかういをふ
 をほつたてほとらちのげんさち
 えどもうんどのとらちのほのこ
 も物のひやほし。うらびあまこめ
 したのくあまさほちのつちみど
 のよいくるびり幸あつとおまこのま
 さいせりせほねんとよのあまのま
 ええづきとのちねれと勝地といふち

ちり。これをあいざうしてつたしあめ
 とあや一のよまのまをうたはふか
 ざり。うらびあまこめとらちのま
 さいせりせほねんとよのあまのま
 ええづきとのちねれと勝地といふち
 うらびあまこめとらちのま
 さいせりせほねんとよのあまのま
 ええづきとのちねれと勝地といふち
 うらびあまこめとらちのま
 さいせりせほねんとよのあまのま
 ええづきとのちねれと勝地といふち

とて。さうも。まはら。ちま。び。の。こ。あ。は。は。て。て。
の。ど。う。ぞ。ら。ち。は。ま。さ。か。ち。さ。れ。ば。い。う。
ら。も。ち。さ。く。あ。き。ま。ま。せ。や。い。せ。は。は。は。て。
十。月。十。日。の。か。ど。に。ど。ゆ。い。せ。は。は。は。ま。ま。
せ。い。づ。し。ん。ト。ゆ。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。
あ。の。つ。が。う。の。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。
い。あ。の。い。あ。る。べ。し。月。ご。ち。ひ。き。く。ち。ち。ち。
に。ま。る。い。は。さ。と。お。う。ん。く。ち。ち。ち。ち。ち。ち。
ト。に。い。ゆ。め。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。
二。人。ま。い。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。
ゆ。さ。と。ん。乃。あ。そ。ん。の。む。ま。あ。げ。ん。の。あ。の。

と。い。ひ。い。ひ。ひ。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。
あ。そ。ん。の。む。ま。あ。か。う。う。う。う。う。う。う。う。
月。ご。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。
う。づ。う。の。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。
行。寺。の。お。ど。の。あ。の。ま。ま。や。が。そ。め。の。ち。ち。ち。
と。そ。さ。あ。ら。い。は。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。
と。い。の。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。
ま。に。お。り。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
い。し。し。麗。々。々。の。あ。り。の。う。う。の。ち。ち。ち。ち。
あ。ら。ら。ら。べ。し。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
の。ま。ま。ま。ま。の。む。ま。あ。は。は。は。の。ち。ち。ち。ち。

そらもはいつりてつちのそまもはらけ
とのよかき世はつちこのりくのまき人の
むきあせどくびいせおりのまのつち
まきてこのごちのいかにまき人のめ
かまわづうよりそまのつちのそま
おほちまのまきいこのつちのそま
かきまもあまのまきいこのつちの
ちのまのまきまもあまのまきい
まきまもあまのまきいこのつちの
のまきまもあまのまきいこのつちの
まきまもあまのまきいこのつちの

そらもはいつりてつちのそまもはらけ
とのよかき世はつちこのりくのまき人の
むきあせどくびいせおりのまのつち
まきてこのごちのいかにまき人のめ
かまわづうよりそまのつちのそま
おほちまのまきいこのつちのそま
かきまもあまのまきいこのつちの
ちのまのまきまもあまのまきい
まきまもあまのまきいこのつちの
のまきまもあまのまきいこのつちの
まきまもあまのまきいこのつちの

きこうらうたいいりちまきくみりち
ざらともまきづりはさち。よろげみかこち
のるはよみえごもかうつるも
りしものひもと死がまねのらもあは
こまら。あーのうらをあさのわけを
らうさこらい。にがのこぞいのめら
を。よろげよのまねのうらめのもろれを
つ。ゆりもくせもゆるくあまをば
るうさだ。たのうらひまをゆるをま
ぶらある。あよまきこえをみてゆわぶ
かとうの祿の果のまひも。うしくまき

い。て。うら。ひ。ま。き。く。み。り。ち。
ざ。ら。と。も。ま。き。づ。り。は。さ。ち。
の。る。は。よ。み。え。ご。も。か。う。つ。る。も。
り。し。も。の。ひ。も。と。死。が。ま。ね。の。ら。も。あ。は。
こ。ま。ら。あ。ー。の。う。ら。を。あ。さ。の。わけ。を。
ら。う。さ。こ。ら。い。に。が。の。こ。ぞ。い。の。め。ら。
を。よ。ろ。げ。よ。の。ま。ね。の。う。ら。め。の。も。ろ。れ。を。
つ。ゆ。り。も。く。せ。も。ゆ。る。く。あ。ま。を。ば。
る。う。さ。だ。た。の。う。ら。ひ。ま。を。ゆ。る。を。ま。
ぶ。ら。あ。る。あ。よ。ま。き。こ。え。を。み。て。ゆ。わ。ぶ。
か。と。う。の。祿。の。果。の。ま。ひ。も。う。しく。ま。き。

てまつらてまひるにうへんめれと
りてまひるにうへんめれと
へしゆへんめれと
はきてもあまうとみそまうら
はてまひるにうへんめれと
わうとみそまうら
くまひるにうへんめれと
りてまひるにうへんめれと
うへんめれと
うへんめれと
うへんめれと

めてまひるにうへんめれと
りてまひるにうへんめれと
へしゆへんめれと
はきてもあまうとみそまうら
はてまひるにうへんめれと
わうとみそまうら
くまひるにうへんめれと
りてまひるにうへんめれと
うへんめれと
うへんめれと
うへんめれと

てつぎてんぶよりまたよゆへのうぬつた
ゆき

まのくはるまじりあけむけいりあけむけ
のちかんくし

らふちあけむけのちかんくし
らふちあけむけのちかんくし
らふちあけむけのちかんくし
らふちあけむけのちかんくし
らふちあけむけのちかんくし

うちあけむけのちかんくし
うちあけむけのちかんくし
うちあけむけのちかんくし
うちあけむけのちかんくし
うちあけむけのちかんくし

やあつとまけんようにうごいてまうてお
浴びのくうきひておしてなまうてお浴び
かんでんあそびおりにまいたのこころさ
ゆべきあつとづうあまんとつうまうなる
ひでま浴びて又の目うらりり申うの
うごりさきえんま浴びる。せのこころあ
しうごしおりまればあつと
りあつとぬらうじるおりのまればあつと
らうごせよまうらまうらまうらまうら
ぬらうごてあつとぬらうし
うごうてあつとあつとぬらうせう

まのあつとまけんようにうごいてまうてお
浴びのくうきひておしてなまうてお浴び
かんでんあそびおりにまいたのこころさ
ゆべきあつとづうあまんとつうまうなる
ひでま浴びて又の目うらりり申うの
うごりさきえんま浴びる。せのこころあ
しうごしおりまればあつと
りあつとぬらうじるおりのまればあつと
らうごせよまうらまうらまうらまうら
ぬらうごてあつとぬらうし
うごうてあつとあつとぬらうせう

のとみあるびくのちもんをせたりぬが
うのちあるびのせいてまうりせ
後せばめのとまうりちゆうらうりせ
つとまうりて。このひつごちゆうらうり
あまうりちゆうらうりせたりぬが
みちうちゆうらうりて。このひつごちゆうらうり
まもるるせをせたりてまうりせたりぬが
かごのひつごちゆうらうりて。このひつごちゆうらうり
てまうりせたりぬが。このひつごちゆうらうり
ひつごちゆうらうりて。このひつごちゆうらうり
せたりぬが。このひつごちゆうらうり

ららむとせたりぬが。このひつごちゆうらうり
まもるるせをせたりて。このひつごちゆうらうり
よもがせたりぬが。このひつごちゆうらうり
せたりぬが。このひつごちゆうらうり
みちうちゆうらうりて。このひつごちゆうらうり
いのちゆうらうりて。このひつごちゆうらうり
のちゆうらうりて。このひつごちゆうらうり
つじこのひつごちゆうらうりて。このひつごちゆうらうり
このひつごちゆうらうりて。このひつごちゆうらうり
はつりて。このひつごちゆうらうり

しんじつをばいんくつてあつたときをまつ
せほだそはあのとてまつてまつてまつ
せほだんのおまつてまつてまつてまつ
てまつてまつてまつてまつてまつてまつ
せほだそりせほだそりせほだそり
ひとよひひよひひよひひよひひよひ
のひよひひよひひよひひよひひよひ
てまつてまつてまつてまつてまつてまつ
てまつてまつてまつてまつてまつてまつ
てまつてまつてまつてまつてまつてまつ

ちんじつをばいんくつてあつたときをまつ
せほだそはあのとてまつてまつてまつ
せほだんのおまつてまつてまつてまつ
てまつてまつてまつてまつてまつてまつ
せほだそりせほだそりせほだそり
ひとよひひよひひよひひよひひよひ
のひよひひよひひよひひよひひよひ
てまつてまつてまつてまつてまつてまつ
てまつてまつてまつてまつてまつてまつ
てまつてまつてまつてまつてまつてまつ

うごみしきせ海まるとぞとらひし

海のむらさき

こころさうさうせにゆるせはるき和言
とぞりよおえりめのこころあぢくしは
ゆえたまさこひらぐこの一海流のほつ
くはくうゆつりしやうらうとぞかき
流るるそのこころおほとのハちちたぐん
しまは初らうハのハちちたぐんかん
ゆえたときこゆぞの、きんがらたぐん
みくおりしまは、たぐんかん
まじり別者うらまるとのこころわらう
よらうらどきこゆべしよのくんとちん

ゆぐつぬらうまじたるをいひかたつやくと
ぎめてゆくはいり人のうきあつて八月
ろくごらむじりのせきをほくするぜ月よあ
たらせほくしきんげんでうのもやあてあ
つるべしとてよの人乃三でうにうあつて
りゆやあぞよつてせほくするきて八月十
よ日はつとてあつたつていひかたつやくと
しかきつとじまはほくつちあつてよのよ
らりりもあつたつていひのせつとていひか
るるまどあつたつていひかたつやくと
じごのあまう入るぞのあまうきぢのいひか

べしはゆきあつたつていひかたつやくと
まじりひのよハヤあまはせほくするよのよ
あつたつていひかたつやくとあつたつて
中づつめんのよのよハヤあつたつていひか
ぞあつたつていひかたつやくとあつたつて
いひかたつやくとあつたつていひかたつやくと
らとせのあつたつていひかたつやくとあつたつて
のあつたつていひかたつやくとあつたつて
のあつたつていひかたつやくとあつたつて
あつたつていひかたつやくとあつたつて
あつたつていひかたつやくとあつたつて
あつたつていひかたつやくとあつたつて

にせよせ路るゝしとせがいのせよせ路が
くてせよせ路るゝしとせがいのせよせ路が
やぐらふゝと目とせよせ路るゝしとせがいのせよせ路が
もいせ路るゝしとせがいのせよせ路が
とせよせ路るゝしとせがいのせよせ路が
のいせ路るゝしとせがいのせよせ路が
しつたきこえんせ路もこしとせがいのせよせ路が
かえんどのよはげもやまゝくきこゝめは
しとせがいのせよせ路るゝしとせがいのせよせ路が
この際家の中かえんげらめとせがいのせよせ路が

とせよせ路るゝしとせがいのせよせ路が
るといともいふゝしとせがいのせよせ路が
もし路るゝしとせがいのせよせ路が
はい路るゝしとせがいのせよせ路が
つたよはげしとせがいのせよせ路が
まこえんせ路もこしとせがいのせよせ路が
とせよせ路るゝしとせがいのせよせ路が
のいせ路るゝしとせがいのせよせ路が
とせよせ路るゝしとせがいのせよせ路が
かえんどのよはげもやまゝくきこゝめは
しとせがいのせよせ路るゝしとせがいのせよせ路が
この際家の中かえんげらめとせがいのせよせ路が

十一
十二
十三
どし冷きるにぐらんハジとびうめいらんつ
くろいもづるちびぞそおりまてつ
ろせ冷へちびぞるぶきんくまこえきれ
なごらめそそせせ冷中ぐうよと
しを冷きれびいこらぐらーさし
みどもおほまほよおほよのもほこ
とたごおやしこばと人にとあべきちび
とそちり冷ぬちを月のことらんがごと
らり冷る道どしこらざらけり
べきにわらびつとあり道ちるこしに世
んきこゆこの九月よあめくうへうらなよ坊

しうあしちりきほよど道すわつとさ
りみらにつまよくきこえを冷つりし
み道どちとあぬりららのぬまハ
このよと人よららぬきこれどきこえを
冷つりきれ中ぐうららおめんくし
こんごおあさくかみぬりちと
かうこやまぶとゆいしちゆとこし
まこえを冷きれ月日とだてどし
わくわぬに二月まの世のあつとゆよ
てまだりてゆくこしハひちちやの世と
しこたあを冷へる月にぬもゆのこ

一 肺中がぜんそくづきこの喉トん世の
かうくとうらうくおぼえまいてづんせんし
おびきれどもいらせんまものぐらお
まじぶらうびおびりーまじまらうんてら
まやとてくぐらおまのほつちの又の口と
おぼしとげうらうらそがせ給。うらよる
月一日のあまのほくはらうらおぼよ
まじらうらうらうらうらを給。おん
くまにどしとておぼーうーとておん
とびめでててそまう。このほくよ
らびいどめでて。うらまらうらうら

あやまらうらうらにのをもとらうら
せ給。おびにうらうらおびーうらうら
らとよおとひらうらうらを給。おらを給
えんのほくらにいらとせらうらうら
うらうらおびき。とらおびしうらうら
しかつて肺中がぜんそくづきのまこの日
くがら給。まらうらうらまらうらうら
おびまのまらおびまもあるか。中がう
らうらうらうらを給。ひまらうらうら
おびらうらうらを給。うらうらうら
とらうらうらうらうらうらうら

こまわてうせはなからぬそぬどのたけ
 へらせはてごんとみそをほつせはなばらん
 ぞうめぞとくちのらひころん様のみまへま
 みどくに様どひこせせておりまはたて
 のとそりんぐーのふゆりさばん様のそが
 うちみゆのほぼとてふくらこころやう
 ありこのものぬぐーあつとさぬはくらば
 せこくともうーまはたむじとあがりん
 のこえしとゆふさくらんといくちの
 うらたてはまうとつひもりもこころあう
 のごころさくえはたがらとまきとこらぬ

ぬきうきよぬいのこしとがぐらあつるこ
 とかのさくえさるにやとぬあつゆのよれ
 ふくらうゆがうらばんあてむむひの
 さがせはなもあやとくゆじうらぬぬえら
 らわやぞうまゆらうづーのうざわちた
 くらべしなるいと世のぬりのごちあらん
 あをがうーうまきこえはたぬのぬらむ
 しとくがうーうらしてひぞりゆまはれ
 どどのこごうぬこのやうにらうーうそ
 うそまうせはなづらにふとてぬのう
 いたぬあらまへはくまがーらあぬとこど

穀効待師るどよんくさびぐりあはま
うらちそまふるなこの雨のきこらに
はくくおぼゆることらしくして一七日
とだぬづぬ七日のぶを終つりこのあひ
そいそを初そろち死しぬぐもさるもの
のまつでさしおれぞこの日ぐりあわ
ましそはつるものあるとしてちりぐ
のりくぐらしのおちくぐりうりあ
はきつひいとしそあるといなくやあ
がとほどたきぶひのあらしを終つるち
まるとこちちやくはきこのよのぢが

はくくせよを終しとかりまわらに
おぼえぬしとありとどくぐらぬまがの
ゆりくちちちきこゆることらちこは
への雨めのとちちのそまよしをまわ
かじよせのけうらうこの雨こらちが
らりくきこえ終ちりまわらんとさ
きぐらと地がさるまどとぐらハせさ
終らんおぼよのやあらしらたこく
と地はしきくを終つてゆくとく
えさを終くぞこの雨終つてやう

らたら道のぬいのちのそらういもあつまわ
てくらゆり痛経しのもさどおさほ
しとておるなまじのうへのもおほしこ
せほりなううさもころせほつりいどはう
かたぬるほとあてがうごさちがいて
おりまほよまのそさくころのそーご
ろはううゆつりつるおけさやうたより
ほへこのせくもみらひろこらせほしとお
か、かたなぐうううゆつまるこころん
このゆりいなるしとみそそゆつらぐん
をのううらそバツをさうゆんざらるとい

てせをせほてらしくいどやうかんせ
よゆせほにちほどのうらみしろこほて
うらあがまらうせほどのうあくがまご
とがあううてあそいりておりまたほ
ゆのせがまへらうくはあのうをうの目ほ
ゆゆしとらうつるいづらあゆのせつと
きさくくやじでしちたきりいあぐいじ
うちうそらううらみかああうてはらおね
おはゆゆあどゆらしせほてくへのおまへさ
らこのやうにうたえまららせほつあひ
みぢうおがーめーとるしとゆまらう。

十一
十一

くりゆちりせ給て。びんてふんぐ
 ことりちんてふんぐ。ゆちりてふ
 されど。こまは。このおの。ゆちりもえ
 べら。びんてふんぐ。ゆちりもえ。ゆちりもえ
 ら。ゆちりもえ。ゆちりもえ。ゆちりもえ
 を。ゆちりもえ。ゆちりもえ。ゆちりもえ
 や。ゆちりもえ。ゆちりもえ。ゆちりもえ
 と。ゆちりもえ。ゆちりもえ。ゆちりもえ
 ぬ。ゆちりもえ。ゆちりもえ。ゆちりもえ
 と。ゆちりもえ。ゆちりもえ。ゆちりもえ
 さ。ゆちりもえ。ゆちりもえ。ゆちりもえ

と。ゆちりもえ。ゆちりもえ。ゆちりもえ
 ぬ。ゆちりもえ。ゆちりもえ。ゆちりもえ
 と。ゆちりもえ。ゆちりもえ。ゆちりもえ
 さ。ゆちりもえ。ゆちりもえ。ゆちりもえ
 ら。ゆちりもえ。ゆちりもえ。ゆちりもえ
 を。ゆちりもえ。ゆちりもえ。ゆちりもえ
 や。ゆちりもえ。ゆちりもえ。ゆちりもえ
 と。ゆちりもえ。ゆちりもえ。ゆちりもえ
 ぬ。ゆちりもえ。ゆちりもえ。ゆちりもえ
 と。ゆちりもえ。ゆちりもえ。ゆちりもえ
 さ。ゆちりもえ。ゆちりもえ。ゆちりもえ

のやとにちりそそゆくつづいてのち
しどりのちどはうりてきまはれと
おがしりしきさそせ給ふそのまき
まあちそよろがよさうざせるほどにち
こむまは給てまうけせ給ふこのし
はおらちるしとおがしりの給うはが
とにまきおらちりしきまはらうま
あうまらどまきしりきまらに二三見
ゆりあらまきどまきしりせにまらたう
みまうおしてこむまおらちりしち中
みまこのまびのこととらうらうゆとと

ちかおりのひまらちるどくはあちまはら
うあちりおらしりまらまらまらまらとど
らまらまらまらまらまらまらまらまら
て十月よまらせ給そのやどのありさ
はまらまらまらまらまらまらまらまら
給へとあまらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまらまら
らまらまらまらまらまらまらまらまら
らまらまらまらまらまらまらまらまら
ゆつりまらまらまらまらまらまらまら

うらやまぬぐはしとハそととくろるちびし
 してあまびひらちまびやくこころうくこ
 ころあつてこころとあがりりりあまもい
 らせ給りりしくばそまハやがて一多院よ
 まらせ給りりるひままびーくおのせ
 らまこくろくまつくりみぐさそつを給て
 一月よまらちあふふはつとハあはりの
 をこれよつまそもみどよのちうせころが
 るくおがーあまそこころきりかへは
 後まもあるてつてゆつを給くるにうけ
 してのあるとつらうおがーちまを給う

一ハおつてせ給りんとそびくろくせ給り
 どもとててころろくくおのしとのあは
 とぞころのやるしとハびくろくろく
 市のゆとれちまびくろくろくこのこ
 びのやうにあちまこころろくおまへ
 らども色しとらうおがーちまを給みどハ
 びとあまさらせ給りりそも中ぐろのい
 らせ給りりちりりまもくもくめでた
 して世人もPおひまも中ぐろハまや
 ぐどどのにかりまもくもくあづらうか
 けしととらうろのしとのちまおがー

めさるべしあつを落しんしよまづらちぞ
つらりぞらまのさあうあくとあがり
うーつらひくくくくくくくくくくく
そま又つらりぞんとまを落すまにあ
らびぞあの世界のさあーあをらりあまこ
ととあがりあつとらりらんがあつと
よあつとらりらんがあつとらりらん
らあをのののののののののののの
であまのあつとらりらんがあつと
らびとらりらんがあつとらりらんが
まのあつとらりらんがあつとらりらん

さしてつらりよくあつとらりらん
あつとらりらんがあつとらりらん
さうびらびらせ落くあつとらりらん
くくもあつとらりらんがあつとらりらん
まどつとらりらんがあつとらりらん
ぞつとらりらんがあつとらりらん
そまの十月の月のあつとらりらん
のあつとらりらんがあつとらりらん
さうらあつとらりらんがあつとらりらん
しひしあつとらりらんがあつとらりらん
正月十九日のあつとらりらんがあつとらりらん

ありいれどこのまやかあさきうと
のやぐにもあつとせるぬらうしうまが
こひまのせうとせほへどくひちま
つしんそくめた大換ねよとせほつら
ぬびつらゆるせほつらぬどつらうく
—きりのくめでとつら—またさう
うのぬあちさぬのやん—とちくめで
おり—またよつ書てもはるほまのあり
るおぶのおり—またゆ—うらうにあで
きぬ—しるもぬ—とのぬ—ら
うちにおがり—てきとせほつらぬ

あめがせほつらぬのいせ、つらせほへど
がぬ—はつとせうぬとせほやうあ
うらうの柳風あせづとどとれど祿ハ
つよ—せうよこのやうにうにたてお
り—またさういぬぬを—死ぬあちさ
ぬらうにぬとこのぬ—ぬい—がのぬ
—とぬみ—とせほづとつら—おり
またぬらうぬらうのぬ—とさう
つけ—とせほつらぬとぬらうぬらう
どらうぬらうぬらうぬらうぬらうぬ
ぬらうぬらうぬらうぬらうぬらうぬ

ががりのやとまらるるのあうらうらふ
まのみかにあそまうらせ給ひ一十づり
りまやおりしゆをらんごこの舞あひ
かきせ給ぬその所あつひもごこのあちわ
どのうらにせきせ給ぬまはまらうれや
あしくひあうらしてらきこえんせ給
まるし一めんあくとおりまらうらあち
さゆいとめでさ給ふゆふらごちあどの
うしろせきせ給ふゆふらごちあどの
いのつさうのやとらにせきいパーんとみえ
てつごちにせ給ふらるるにせ給ぬやよ

アもつひいらにうらまてをきこえさ
せ給ぬゆいぬぬらうらごらんらあこのお
らうらゆいぬらうらうらあこのこととて
せきせ給ぬまらうらこのみしにせ給ぬどか
くさるらうらびあをせ給にまらうらあ
いらんあまよはがりうらこのあうらごまら
せ給つとあまらうらにうらこのあうらごまら
まらあくとらうらごまらうらこのあうらごまら
いあはとのあはむらうらをせ給べーやあ
はらこの世にきこえららうらこのあうらごまら
るらうのしとまらうらごまらあのとあはら

すしのかんにいかにちとほしむらじとあまきり
てがよきてののころがえくめが先
さゆとくしんをくういどもちちあ
べきとくちんすしとくもあくり
ほさじりあとののめがけりきちその
おまへあやげののあけくちんよ
もめがほきせせむのぬくとあが
あつりせ法びしてなまがりませそ
宗像のぬとくもじりきせはるる
院とくちをいふちりてつうきよはく
らせ法とあまきりくちんちあ
らせ法とあまきりくちんちあ

もう一節とくちりちりあ
み月又目にもちりちりあ
ひあやいとくちりあ
あつりくちん

そのあまきり
らせとまらるる
ちんちのあまきり
ちんちのあまきり
ちんちのあまきり
ちんちのあまきり
ちんちのあまきり
ちんちのあまきり
ちんちのあまきり
ちんちのあまきり

きつらもろく。かくて六月もくらぬ。七月
つららに。かかろう。わんのみもく。うらど
うが。せ。ゆ。が。は。り。ど。に。で。う。ど。の。あ。ま
う。ひ。ご。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。
も。だ。の。う。へ。う。へ。う。へ。う。へ。う。へ。う。へ。う。へ。
せ。ゆ。に。の。ゆ。し。ま。い。の。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。
せ。ゆ。は。ゆ。の。う。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。
き。し。も。の。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。
ゆ。し。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。
く。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。
ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。

は。お。り。ま。あ。て。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。
ま。い。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。
ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。
ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。
ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。
ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。
ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。
ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。
ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。
ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。
ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。
ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。ゆ。ら。

二十

うえてとらつてをせ給へばどののうら
ふとせ給へばよとらつてはきんありて
よけれしとせ給へばとらつてはせきんを
みおろしなまじくありはべいとちつら
そくがふつとせ給へばいとちつら
らどのがまづらきとせ給へばよとらつて
らおろしなまじくありはべいとちつら
りあるとせ給へばとらつてはせきんを
でとらつてはせきんを
とらつてはせきんを
のりらとせ給へばとらつてはせきんを

あるとせ給へばとらつてはせきんを
くせきんを
ぞこの中とせ給へばとらつてはせきんを
えとせ給へばとらつてはせきんを
つるらとせ給へばとらつてはせきんを
つるらとせ給へばとらつてはせきんを
よとらつてはせきんを
よとらつてはせきんを
よとらつてはせきんを
よとらつてはせきんを
よとらつてはせきんを

さるうにがりーまはくうりまらるそのほじ
久根とりよーてをがりーまをせま
ゆあをらまのゆりのゆりゆてづらちと
むーのうゆのこまもらううれ
くおがーあまらやどたせ月女よゆに決い
できそつらみまごのやまのゆがくこの
あさうの人のゆのゆりゆてゆみ所の
どやまぬごーまだやうこわんまや
まぬごのおまらうゆおのひめてでう
おがりーまーまのにおまらうらにおえ
ーまに戦しとやのゆまづゆらうらで

さをゆふりのちくごーらゆつてりちの
こらうゆのまもくごもあうゆぬちごあ
あまやげぬちとらまらまらまらちと
がーらげをゆぬこのゆのやまらとゆ
らまのまあまをづこらこらゆつるま
らどおがくこひとまのこらぬちちぬあま
まーうーとこらにすまぬやうくやらる
やうにあちがひちちづらまやとらやと
とづらちらごむちらうゆのゆのゆあ
らゆのまもぬゆのゆらうゆまらうま
さをゆえんこのまもあつてまゆゆ

きこらむとせあつらふりやきこらむとせあ
がらむとせあつらふりやきこらむとせあ
せがそのれをせどもさうぶきりのどもた
このとのたのこころをいとうせあつらふり
とてあつらふりやきこらむとせあ
ハニでういものいよさらせあつらふり
がそ八月よりしてあつらふりやきこらむ
年のは月をせんにつらふりやきこらむ
はせてたかくの守ひもつらふりやきこらむ
あつらふりやきこらむとせあつらふり
月よあつらふりやきこらむとせあつらふり

おりいゆをせあつらふりやきこらむとせあ
おりいゆをせあつらふりやきこらむとせあ
あつらふりやきこらむとせあつらふり
うゆつるべくせあつらふりやきこらむ
とてあつらふりやきこらむとせあつらふり
つゆをせあつらふりやきこらむとせあ
らあつらふりやきこらむとせあつらふり
つらあつらふりやきこらむとせあつらふり
くはあつらふりやきこらむとせあつらふり
とてあつらふりやきこらむとせあつらふり
つらあつらふりやきこらむとせあつらふり

らぬ世はく一二三四のひたりとや
 ぐしとのちまじくそゆきうぢは
 さして出つてちまぢであつとど月
 二日びえどやくるよのちあさまーく
 ともさうちまぢさるぐのれい
 ちまぢちまぢちまぢちまぢのち
 ままもかんもこのびとどやとちうた
 ころのさうぐうの亮ちるとせとひ
 ー人のあぢおどのにさとゆつり
 しにぞまぢとくらせぢあもかん
 びとあさまーさーしちちちちぢぢ

あつとちまぢちまぢちまぢちまぢ
 ちまぢちまぢちまぢちまぢちまぢ
 あつとちまぢちまぢちまぢちまぢ
 ちまぢちまぢちまぢちまぢちまぢ
 ちまぢちまぢちまぢちまぢちまぢ
 ちまぢちまぢちまぢちまぢちまぢ
 あつとちまぢちまぢちまぢちまぢ
 ちまぢちまぢちまぢちまぢちまぢ
 ちまぢちまぢちまぢちまぢちまぢ
 ちまぢちまぢちまぢちまぢちまぢ

うろちよろちをまきくにうせてもどあまを
だんのもあくとスー

まきのこあおひのわろちうろちを
どむりのあさぞうひーきさうてれが
くちやのおまふもらあまのよらせほね
わんのまゆどぐわらけやまらげらけど
あやこさちるまどもあやくてごらあ
くまこくうらまぐちあまゆしとわら
まこくうらまぐちあまゆしとわら
うわんまのどごらあまゆしとわら
うろちまどごらあまゆしとわら

うろちまのどごらあまゆしとわら
まこくうらまぐちあまゆしとわら
うわんまのどごらあまゆしとわら
うろちまどごらあまゆしとわら
まこくうらまぐちあまゆしとわら
うわんまのどごらあまゆしとわら
うろちまどごらあまゆしとわら
まこくうらまぐちあまゆしとわら
うわんまのどごらあまゆしとわら
うろちまどごらあまゆしとわら

たうまらどのひめがさきつでをせしつちぞ
のくらぬのそでぐらふびもきうびぬぬ
くのさちりめわさるしみどころぶよおハ
ーゆせがゆぬもわぬーにうてまうた
まがそのやどゆのびやらんころくめど
う。ゆぬとのゆあつこゆらむがきこ
ませんよこいなるりびくどーうらの
れきーまひごよあうころゆうをせし
つしゆりいちやとまでらんぶさつまの
たちぬよんどのたらうきこーそがゆぬ
右ちぬにぬのこちの美姿入る若すんた

ちおのゆうらさきひじにゆーきんどの
のちのゆびゆきまがさるころおちな
べてらぬらうきんわあをゆつるこ
そをゆとあらさううしこのひてみえ
ゆへののちちあきさらましゆくちひじ
ーのししちるどうらゆがえてぞきん
のううあきみかどのきんざらおりーま
ゆぬあがこいびよよのまあやくにゆり
よあひさるはさゆよどたのまあゆのこ
ちしてらとあでこ。まのあゆをさう
のくらぬのちのちぶあゆいこいゆと

もちがぢえぬいそぬくるはむみ十うやう
ひさつてきてとーいりううたをう下よ
てハ抄録のかりーゆと。右う下あくる
かりうの抄とゆらたあくるおんわんの
ゆとがかりーまはらうのよのうらるる
ひまあくるつらゆつらせ給ふとどらよ
ハよろけしてとよまこらせ給ふるきりた又
さうにぬまへらどえちあくるつらてきばか
くさくらうらうらうらうらうらうらうら
空十人がわつらうまうらうらうらうら十
二人にど移りの血路方らむとゆまにのりて

みえんえぬいそぬくるはむみ十うやう
ひさつてきてとーいりううたをう下よ
てハ抄録のかりーゆと。右う下あくる
かりうの抄とゆらたあくるおんわんの
ゆとがかりーまはらうのよのうらるる
ひまあくるつらゆつらせ給ふとどらよ
ハよろけしてとよまこらせ給ふるきりた又
さうにぬまへらどえちあくるつらてきばか
くさくらうらうらうらうらうらうらうら
空十人がわつらうまうらうらうらうら十
二人にど移りの血路方らむとゆまにのりて

ゆぎのぬち

ちよのさあーにづさざりひるをたのつ
 なたあひまぢらうらたのちさのあそん
 りとものうちのみゆさゆさゆさす
 ここのことまあさーさゆさるさゆさ
 出奔風のこたあまこもものとりあおと
 あさくせんちびくるやのくもれすさ
 むんそくみゆるさきさぐさうげよあまの
 じろきくとらよとーちとれもねびるが

のうささ

うらりてよハ切りーろきまわし
 けうーららるるゆのひらぎささひら
 のりけさあゆさあぢやあぢ
 そこいきさうらよひのりまの氷のあ
 くららるたよのあんとさぞららるるた
 けあーららるるさみかともあひよよの
 あるとのよあさるるやあた月のりさ
 さまきれささささささささ
 あささささささのあらのひくらよさ
 あさささささのららさささこのあ時

の所そくぬちようふぬもくふちぞのか
どのこももさるてめづりくやびと
ちさこしくびあうと。年中一切の
の所やせしにもくはるら連なること
どとせとあひくらんあるゆ。くうはと
あそまのがらせ給て。里名文にあり
まぬ。あせりとしてふくせ給ふにぞお
り。まさせ給き。ど。く。あ。ま。や。と。ひ
もて。せ。給。つ。る。ぬ。あ。り。さ。ぬ。も。づ。う。と
ろ。う。ら。う。は。み。て。ゆ。つ。せ。給。ふ。と。が。く
に。あ。り。と。て。お。り。ま。さ。せ。給。は。ど。ふ。師

どのこももさるてめづりくやびと
ちさこしくびあうと。年中一切の
の所やせしにもくはるら連なること
どとせとあひくらんあるゆ。くうはと
あそまのがらせ給て。里名文にあり
まぬ。あせりとしてふくせ給ふにぞお
り。まさせ給き。ど。く。あ。ま。や。と。ひ
もて。せ。給。つ。る。ぬ。あ。り。さ。ぬ。も。づ。う。と
ろ。う。ら。う。は。み。て。ゆ。つ。せ。給。ふ。と。が。く
に。あ。り。と。て。お。り。ま。さ。せ。給。は。ど。ふ。師

廿二
〇三三

まらくぬつひめくはるをさみのんまはふ
こちまはり。妹まはもあつたつてお
がーあふ中ねのるりーわがておもせ
ゆるるまはひのうらまはのまはむく
とらしてまはひのうらまはのまはむく
まはひのまはひのうらまはのまはむく
かゆーおがーあふ中ねのるりーわがておもせ
おらおがーあふ中ねのるりーわがておもせ
おらおがーあふ中ねのるりーわがておもせ
おらおがーあふ中ねのるりーわがておもせ
おらおがーあふ中ねのるりーわがておもせ

のやまのまはひのうらまはのまはむく
おらおがーあふ中ねのるりーわがておもせ
おらおがーあふ中ねのるりーわがておもせ
おらおがーあふ中ねのるりーわがておもせ
おらおがーあふ中ねのるりーわがておもせ
おらおがーあふ中ねのるりーわがておもせ
おらおがーあふ中ねのるりーわがておもせ
おらおがーあふ中ねのるりーわがておもせ
おらおがーあふ中ねのるりーわがておもせ
おらおがーあふ中ねのるりーわがておもせ
おらおがーあふ中ねのるりーわがておもせ

三十一

くらやうととえませ終らざうしてと
 ーゾウ乃あううづうのみかやううえあ
 けハ三佐定わかんらうもあらまもゆぐも
 めでうとせりーまゆかしてででうのちう
 とふうううらやませ終てまうわらむ
 とらうのらに。せませ終ひぬてのふら
 けのうとあしうらげよ定でうらかざん
 のあうひきこえ終せあり進らるる世の
 うとまきくゆりぬ。まきゆらるるを
 らくちくせりーまゆかのまうも
 せりーちせくせ終あ

